

# 「スカッシュをメジャーに」

スカッシュで急成長する十勝管内音更中出身の山崎真結(16)は、19日から札幌で行われる北海道オープン選手権に出場する。昨春、本格的な練習の場を求めて横浜に移り、6月上旬にはジュニアの国際大会で初優勝。道内出身選手では初めて、「スカッシュをメジャーにしたい」と張り切っている。

## 国際大会V 夢は五輪

小学3年の時、音更町で



の講習会でスカッシュに触れた。小学6年で再び講習会に参加、「自分のショット

で相手が一步も動けなかったりすると楽しい」とスカッシュの魅力を知る。競技のめり込み、中学1年で全日本ジュニア選手権に優勝した。

音更町の講習会で講師を務め、才能を見抜いたのが、日本選手権7度の優勝を誇る渡辺祥広さん。高校進学を迎え「スカッシュを優先したい」と考えていた山崎を、練習環境の整っている横浜に誘った。

通信制高校で学び、週5回の激しい練習に励む。マレーシアのペナンインターナショナルジュニアオープン選手権(8日)で優勝し、実力を証明した。山崎の武器は、横の壁を利用し、相手を惑わすボースト。身長147センチと小柄な分、低い球を確実に拾い好機につなげる。渡辺さんは「強打より技がいい。集中力などメンタル面もすごい」と高く評価する。

渡辺さんと練習に励む山崎(手前)。「思い通りの練習で自信がついてきた」と成長を実感する

スカッシュは、東京都が招致を進める2016年五輪での実施競技入りを目指している。山崎は「やっぱりメダルが欲しい」。将来の五輪メダリストを夢見て技を磨く。

を兼ねてトラックの長距離種目に出場する予定。

ラドクリフら英代表に選出

【ロンドン2日共同】英国陸連は2日、世界選手権(8月・ベルリ

ン)の女子マラソン代表に、世界記録保持者のポーラ・ラドクリフと、夫が日本人で日本に練習拠点を置くマラ・ヤマウチを選び、発表した。

35歳のラドクリフは前回の大阪大会は欠場しており、2005年のヘルシンキ大会以来、2大会ぶりの優勝を目指す。昨年11月のニューヨークシティ・マラソンで優勝したが、今年4月のロンドンでは右足先の骨折で欠場した。

35歳のヤマウチは前回の大会で9位となり、入賞した。今年のロンドンは2位に入賞した。

## スカッシュ世界ジュニア

### 山崎(音更中)が準優勝

スカッシュの世界大ニジュニアスカッシュ会「ミロ・オールスタ選手権」(マレーシア)

は2日、女子U17(17歳以下)の決勝が行われ、山崎真結(16)は横浜修悠館高2年一十勝管内音更中が準優勝した。山崎は決勝で地

元マレーシアの選手と対戦したが、0-3で敗れ、優勝を逃した。試合後、山崎は「納得できるプレーができず、悔しいです」と話した。

日本スカッシュ協会によると、同選手権には14カ国約540人が出場し、日本選手も10人参加した。これまでに同選手権で日本人の優勝者はなく、準優勝は山崎で3人目。

体幹を鍛える。水上練習に戻し、カナダ遠征で試みる。阿部晋也監